

平成26年度事業報告書

1. 平成26年の活動を振り返って…

【はじめに】

既にご報告の通り、今年度（平成26年度）の4月1日に「一般財団法人春日会」として新たに発足して1年が経過しました。新法人として再発足したとは言え、事業の内容はこれまで半世紀以上にわたり続けてきた事柄と何等変えることは無く、粛々として計画を実行して参りました。

とは言え、事業運営において前法人より遂行義務が強化されたのが「公益目的事業」です。前法人においては全ての事業内容を監督官庁である文化庁へ届出で許可を受ける必要がありましたが、新法人（一般財団法人）では「公益目的事業遂行報告」のみの報告が義務化され、その他の事業に関しては法人の責任で事業運営されることになりました。極端な表現になりますが、新法人の監督官庁である「内閣府」にとって関心があるのは「公益目的事業を如何に推し進めているか…」であると言えるでしょう。

【春日会の動向】

春日会の事業を支え、推進して行く土台を築いているのは会員の皆様です。春日会の事業を強化して行く要は「会員の増加」にあります。

お陰様で、会員皆様のお力によって今年度も多くの皆様を会員に、或いは会員予備軍である名取にお迎えすることが出来ました。伝統芸能を取り巻く環境が、年々厳しさを増して行く中で

新師範 10 名（改名者含む）

新名取 50 名

と春日の仲間が誕生したことは特筆に値すると言えるでしょう。ただ残念なのは、会員として登録をする「新師範」が例年に比べて少なかったことでした。既に述べました様に、会の運営をスムーズに行うには会員の増大であり、今後課題を残したと言えるでしょう。

ところで、今年度から名取式のあり方に大きな変化がありました。これまで長年にわたり名取式は、春日会館におき執り行って参りました。2階広間に赤毛氈を敷きつめ、金屏風を背景に厳粛に行って参りましたが、平成27年3月の名取式から会場を小唄に縁の深い湯島神社にて執り行うことになりました。

厳かに雅楽の生演奏が奏でられ巫女舞が奉じられる中での名取式は、新名取になられた方にとって感慨深い、思い出深い式となられたことでしょう。今後

は全ての名取式は湯島神社にて執り行われます。

さて、今年度は「小唄春日会」が創立されて八十五年となりましたが、平成26年5月31日（土）国立劇場小劇場におきまして「春日会創流八十五周年記念全国大会」を盛大に催すことが出来ました。特筆すべきは開幕の舞台でした。

財団創立五十周年を記念して委嘱された「春日の花」を、六段に及ぶ山台に師範123名が整然と並び、一糸乱れぬ演奏で開幕から駆けつけた多くのお客様に大きな感動を与えたことでした。この記念大会の成功は、「小唄界に春日会あり」の印象を一段と強く残すことになりました。

【財団の動向】

今年度から移行した新法人に課せられた最大の課題は、「公益目的事業を滞りなく遂行すること」で有ることは既に述べたとおりですが、これは流祖「春日やよ」が私財を投じてつくり上げた「財団」の遺志と完全に合致するものです。流祖は「小唄の振興・普及」を願い財団を創立致しました。そして今新たに一般財団法人春日会として活動して行く私共にとって、昨今の伝統芸能への関心の低さと厳しい環境の中で、どの様に小唄などの伝統芸能へ興味・関心を持ってもらえるか…をテーマに活動することは、流祖の遺志を継ぐ者として当然の責務です。

このテーマを実現する為、私共は次の4つの方法を掲げて活動しております。

1. 小唄の優れた演奏を行い鑑賞してもらう
2. 小唄演奏家・指導者を育てる
3. 小唄の演奏を体験する
4. 小唄の作品について知る

1、2 は、財団設立以来行ってきた中心をなす活動です。現在は春の「研究会」秋の「慈善会」に加え「（関西）慈善会」を大阪で毎年行っております。しかし大きな会場での小唄演奏会だけでは、興味の余り多くない方々までを巻き込むことは難しく、「それならばこちら（演奏者）から、多くの人々の中に飛び込んで行こう…」と街中での小唄ライブを定期的に行っております。

しかしどの様に演奏に触れる機会を増やしても、演奏が良くなければ逆効果。その為には演奏家の育成が欠かせません。加えて、興味を持った方に正しく、楽しく小唄を教える為の指導者の育成、とりわけ会が発展して行くには次代を担う指導者の育成が何より重要です。これを実現する為若手に日頃の成果を発表する場としてのライブ、また会員全体を対象に小唄の作品講習会を行っております。

更に次なる課題として、3番目の「演奏の体験」が必要です。鑑賞して小唄の楽しさ、奥深さを知るだけでは無く自ら「小唄を体験」してみる。これまで

小唄の演奏に触れたことの無い方々を対象に、一回でも小唄を唄ってみる、三味線に触れてみることは、これを機会に一層小唄を身近の感じることとなります。数年前から「小唄体験教室」を実施、雑誌、インターネットなどで募集致しましたが、早くから定員に達し関心の高さが伺えました。

最後に、小唄について4番目の「知る」活動を行っております。小唄は数多い伝統芸能の中で遅くに大成した芸能です。それだけにこれまでの様々な芸能の要素を、その芸域の中に取り込んでおります。将に小唄を学び知ることは、日本の伝統芸能全体に触れることにも繋がります。この様な小唄の背景を学ぶための「文化講演会」を実現しました。また「作品」の解題の研究者を育成するための活動を始めております。

この様な素晴らしい要素を含んでいる小唄を振興・普及するには、春日会がどの様な事業を行おうと、またそこへ如何に予算をかけようと会員一人一人の力には及びません。春日会の会員一人一人が、小唄を広げる情報の発信者なのです。春日会は、その皆様の支えとなって活動して参ります。